
君の名はマリア

水色ペンキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の名はマリア

【Nコード】

N8145E

【作者名】

水色ペンキ

【あらすじ】

交通事故によって愛犬が危篤状態になってしまった。少女はインディアンの伝承にある、死につつある人間と捕虜の魂を交換する儀式を行おうと決心するが……。

（前書き）

ちょっと実験的なので、読みにくいです。

病気のフーシエを山の上に置いてきたって言ったらパパもママも妙な顔をしてシチューに突っ込んだスプーンを止めたわママはどうしてそんなことするのって聞いたけど仕方ないじゃないそうしないとフーシエ死んじゃうんだからって言い返してやったらいつもどおりすぐ黙ったのいちいち説明しないとわからないおバカなママにはもううんざりパパみたくあたしの言うことに黙って従ってればいいのにねそう思わないねえ？

フーシエは先週車に潰された足の付け根から体が腐ってここんとこ裏のポーチですつとくんくん鳴いてたのよ獣医さんもさじ投げててパパは安楽死させようかなんて言っただけで冗談じゃない可愛い可愛いあたしのフーシエあの子はあたしがちっちゃい頃からずっと遊んできた姉弟みたいなものじゃないあの子を殺させたりなんてするもんかそんなこと考える奴はあたしが逆に殺してやるわそれにいいアイデアがあるのよあの子は死なない死ななくてすむのよ誰が見殺しになんてするもんですか。

あたしあの子が弱っていくの毎日朝から晩まで椅子に座ってずっと見てたわ膿が凄いかろうちに入れるのはちよつとムツカしくて気づいたらウジが湧いてて凄く気持ち悪いのポーチの床に染みがついたりしてでもね神様幸いなるかなそうやってフーシエが弱っていくのがあたしたまらなく楽しかったのだって夏休みが終わっちゃったら時間が作りにくくなるしそしたらフーシエを助ける時間がなくなっちゃうしフーシエが死んだら学校に行ってロージーに噛みつかせたりすることもできなくなっちゃうしだからはやく危篤になつてくれた方が助かったのよだつてすぐ次のステップに進めるもんそいでずっとフーシエを見てたらポーチの屋根から日の光が漏れてまっ黒い蠅が光りながらそこらじゅうで唸ってるのそして今日の昼にねついにフーシエが天国への階段を登り始めたのに気づいたのよ息が細

くなつて目が濁つて多分明日まではもたないつてすぐわかつたあたしカンバスでフーシエを包んで『文化的遺構』小学校の郷土見学でいくアレのところまで自転車で運んだのよ夜の準備にね山のてっぺんのトーマポールとこに着いたときにはもう日が暮れかけててその辺にいつもいるマヌケっぽい小学生とかの姿も見えなかつたちよーうどいいわ神様のご加護よねきつとだつてガキにフーシエをいじられたりする心配しなくて済むし。

ポールの下にフーシエを置いたら地面が意外とごつごつしてて可哀想かなとちよつと思つたけどどうせ何時間かのことだしいいやと思つてそのままにしてきたのフーシエの目はヤニが出ててもう半分以上くらい開かなくなつててそれでも黒い目の玉がその隙間からあたしを見ててなんかもうやるせない気分よ安心してよねあたしがあんたを絶対助けてあげるんだからつて聞いている？ 聞いているの？ ハロ―？ ガーリヤ？ ラット・ラビイ？ あんたたちずっとあたしに喋らせる気？ ニエツト、そんなことないわ。聞いている。

そいで夕飯終わつてママもパパもテレビ見たのねこうなつたら二人だけのダンランなわけあたしみたいなメンドクさいのには構おうとしないから都合あたしこつそり抜け出してまずはマリーニヨのペットシヨップ寄つてウサギを一匹買ったのよあとで使うからね耳の垂れた毛の長い奴でとんでもない間抜け面で二十ドルもすんのねそいでマリーニヨのクソ親父可愛いでしょ飼ひ方分からなかつたらいつでも聞いてくださいなんてやたら肩とか触ってくるのいやらしいつたらありやしないカゴとかないし手足紐で縛つてくたさいつて言つたらあの親父ビツクリしちゃつて気味が悪いみたいな目であたしを見てたわ何よ別に変わんないじゃないちよつとの間生きてりゃいいんだからそれじゃウサギが痛がるとかなに言つてんのアホらしい魚釣るとき針じゃ痛いから糸だけで釣ろうなんて考えるかしらそんなわけないじゃないそんでウサちゃんの手足縛つて自転車のハンドルにぶら下げて家帰つてガレージでパパの工具箱探して持つてこうと思つただけとメチャクチャ重くて全然無理なのよ仕方な

いからハンマーとノコギリだけ持って山に戻ることにしたの。

荷物はさつきより軽かったけど山に登るのはさつきよりずっとめんど臭かったな。ぜってハンドルにぶら下げたウサちゃん、ペダル漕ぐたびにぶらぶら揺れてシャフトに当たるのよ。そのたんびにピクピクして大人しくぶら下がってて、言っても聞くもんじゃないわ。本当にマヌケなウサギよね。でも気をつけないと着く前に死んじゃったら元も子もないでしょ。そんで頂上ついてチェックしたらウサちゃん、なんとか生きててひと安心。そんでフーシエもまだ息があって準備万端。あたし早速ウサちゃんの紐を半分ほどいてフーシエの真上のトームポールの節んとこにくくりつけたわ。後足で蹴られると痛いのよね。あんな情けない顔してるくせに、そんでノコギリでウサちゃんの首を挽いたのよ。ゴリゴリゴリって骨が硬くてウサちゃん暴れるし、紐外れるんじゃないかって冷や冷やしたわ。それで血が凄くて手もぬるぬるするし、生温かいし、服も汚れるし。ああサイアクって思ったけど、仕方ないわよね。フーシエのためだもん。ぼたぼた滴る血がフーシエの上に落ちて、なんとか準備は完了してさ。あ次のステップよって、あたし裸になつて脱いだ服で手を拭ったの。あとはラットの仕事よ。ウサちゃんの血で体に模様描いて、あとは歌だっけ？ あたし知らないけど、図書館で見た本じゃそう。なつてたから歌とか踊りとかラットに任せるって言ったら、この子よく知らないなんて言い出して、ふざけんじやないわ。よ。小学校のとき郷土見学でここ来て、ダーシー先生にインディアン之魂の入れ替え儀式の跡地って聞いて、それからずっとあたし覚えてたのよ。呪術とか図書館で調べたりして、瀕死の人の魂を捕虜の体に入れ替えるとか。つて、あんだがあたしの中に入ってきたのも、その頃じゃない。あんだインディアンの子でしょ。なんで出来ないのよ。このクズ役立たず。仕方ないからうる覚えの挿絵通りに全部、あたしが模様も描いて歌とかそれっぽい感じで、『かーみーさーまーおーねーがーいーしーまーすーフーシエーとーマリーアーのーたーまーしーいーをーいーれーかーえーてーくーだーさーいー』って歌って、つてか神様って誰よ？

でもしばらく待ってもなにも起こらないのねフーシェ？ フーシェ？ あたしの中に入った？ って聞いてもフーシェは返事しないしマリアはいつも通りいるんだかいけないんだか引き篋もったままだしラットも助けてくれないしもうわけわかんない試しにもう二回繰り返したけどなにも変わらなくてあたし泣きそうになってどうしようとか思ってたなら邪魔者が来たのよクラスメートのロッドあなたも知ってるわよねお友達だもんねジョギングスタイルでいきなり登山道の方から上がってきておいマリアなにしてんだよなんてあなたの知ったこっちゃないわよあたし忙しいからここでターンするならすぐ行ってよねっていったけどこのマヌケ野郎立ち止まってこつちポカンって見てるのよマジむかつく時間がないのよあんたがいると気が散るって言ってもテコでも動かない気配やんなるわそいでなんでお前裸なのって見りゃわかるだろボケ儀式に必要なのよつつたら欲求不満の儀式なら手伝うぜなんてニヤニヤしてああほんともう男って馬鹿よねなに勘違いしてんのよ。

イライラして辺り見回してたらロッドの奴近づいてきてあたしの肩に手を載せてどうしたんだよこれって模様描いたあたしのおっぱいとか触ろうとすんのもう邪魔しないでよマジ時間ないんだからフーシェが死んじゃう前に何とかしないとならないんだからって言うてんのに何だよそれわけわかんねとか言ってわかんないならあっち行ってよって頼んでもジッパ―押さえて肩に腕回してきてああもう嫌んなるでもそのときふと思ったのよフーシェはオスでしょだからもしかしたらマリアとフーシェの入れ替えはできないのかもしれないって本にはそんなこと書いてなかったけどねありそうな話じゃないだからロッドで試せないかしらと思ったのうまくフーシェがロッドの中に入ったらこいつ連れて帰ればいいんだし学校も楽しくなるわよねそれであたし訊いたのよねえロッドさつき協力してくれるって言ったわよねってしたらロッドの奴いつのまにか腰屈めてあたしの乳首に舌伸ばしてただけどビックリしたみたいな顔してこつち見上げたわ男って馬鹿よねこういうとき女の反応が一つか二つだ

と思つてそうじゃなかつたら途端に混乱しちゃうんだから。

何だよその気なら早く言えよなんて作り笑い浮かべちゃつてまあそんなことどうでもいいわ手伝つてさえくれるならねそれでロツドをトーテムポールまで引つ張つてたら何だこりゃうわ臭つせえとか騒ぎ出して顔しかめちやつてお前頭イカレてるブードウーマニアかよなんて戸惑つちやつてんの情けないつたらありやしないなのに何でもいいからさつさと脱いでよあんたのお腹に絵描くからつて言つたら脱ぐのだけは早いよねでこのアホを素っ裸にしてウサちゃんの固まりかけの血で胸とか腹とか絵描いてたらロツドの奴腰突きだしてペニスをあたしの顔に当てようとかしやつて邪魔くさいつたらないわノコでそのままぶつた切つてやろうかつて思つたくらいそれで描き終わつて並んで立つて祈りなさいつて命令したけどこのトンマなんて祈ればいいんだとか何に祈ればいいんだとかブツブツ言つてじゃああたしが手本見せるからその通りにやつてつて言つてさつきみたいに『かーみーさーまーおーねーがーいー』つてやったのよそしたらコイツ笑いやがつてお前イカレてるぜつてそれはさつき聞いたわ何でもいいからやるのよ時間ないんだから早くお願い急いでよつて頼んでも聞くもんじゃやない股ぐらおつ立ててもういいだろさつさとやろうぜなんてあたしの肩掴んでああもうこんな奴アテにしたのが間違이었다。

ロツドの奴あたしを押し倒して脚の間に足入れてこようとするとさしフーシエ？ フーシエ？ 聞こえてるの？ この男の中入りなさいつて呼んでみても何も起こらないロツドの奴フーシエつて何だよとか聞くしそんなことも知らないのあたしの犬よつていつたら何だお前犬とやりたかったのかよだつてさホント失礼なやつフーシエはそんなんじゃないけどもしそんなになつたとしてもフーシエの方がこの男よりよっぽどマシよねああもうどいてよ手伝う気ないんなら邪魔なだけだからつて頼んだけどこの男もうやることしか考えてないのなんだかんだいって力強いしああわかつたわあたし次の手考えるからガーリヤこいつの相手しててよつていつたらこの子ブツブツ文

句言い出してまったく嫌んなるわ。

そりやそうよ、なんであんな男にやられるときだけあたしが前に出なくちゃならないの？

うるさいわね普段役に立たないんだからそれくらいいでしょラットは子供だし『ミーチャとガーリヤのペテルブルグ旅行記』じゃあんだあの銀髪のハンサムとやりまくりだったんじゃないのロシア男じゃないと嫌だっていうのまあいいわこの子がロッドに抱かれてる間にあたし考えたのよフーシエはロッドにも入らなかったなぜかしらって一番ありそうなのはロッドが真面目にやらなかったからって可能性だけじゃあどうすればいいのよこのクソ野郎セックスにか興味ないみたいだし何とか自分の体から出て行きたいとか犬と心を入れ替えたいとか思わせられないかしらってそれで考えたんだけどぶつちやけ無理よねじゃあどうしたらいいのよってかそもそも全部仮説なのよねカセツカセツ雄同士じゃないと入れ替わらないのかもってのも仮説だしホントのことなんてわからないじゃあ試しにこうしてみたらどうかかって思ったのよロッドとマリアを入れ替えるのそれに成功したらあらためてフーシエとロッドを入れ替えればいいんだわそれで入れ替えが可能かどうかわかるじゃない。

そう、それでキャシーがわたしに丸投げしたのよ。ひどい話でしょ。なんでわたしが手伝わないとまらないのよ。知らない男に抱かれたりまでして。言っとくけど、わたしあんな犬ツコロになんて興味ないのよ。

うるさいわねこの好き者今はあたしが上なんだから黙って言うこと聞いてりやそれでいいのよ実際あんだってまんざらでもなかったんでしょ結局協力はしたんだから。

マリアがいけ好かないだけよ。試す価値があるなと思っただけ。それでね、あの男にあたし聞いたの、ねえ、ホンキであたしの中に入ってみないって。彼もう入ってるじゃねえかと言ったけど、そうじゃなくて、もっと、マジで、徹底的によって言ったら、なんだかニヤついてオッケー、じゃどうしたらいい？とか聞いてきたの

ね。じゃあやりながらでいいからシャツ着てよって頼んだの。何だよ、そういうシチュが好きなのか？ とか言うから、まあそんなとこって答えて、シャツ取ってあの男の頭に載つけたわ。そしたらね、笑っちゃうけど、あいつわたしの言ったとおりにはペニス抜かないでそのままシャツを着ようっていうのよ。で案の定、うまく着れずにもがいてるの。わたしあいつの首に腕回して起き上がったわ。ロッドだっけ？ 彼、裏返ったシャツの中に頭が隠れててね、ウクライナの案山子みたいに腕がこう、なんていうか、変に曲がったまま固まってるの。その上からぐつと抱きしめて、ハラショー、そのままでもいいのよ、そのまま続けて、って言ったら、彼ね、何か妙に興奮したみたいで、じゃあそのまま首抱いててくれて言っておたしの腰に両手をあてたのよ。あたし彼の膝の上に座り直して、こっちで腰浮かせながら横にあったハンマーを手にとったの。で、彼の胸を押してちよつと間を開けてね、シャツで目隠した頭の上に思いつきり打ち降ろしたわけ。パコンって軽い音がしたわ。古い椅子を叩き壊して、ストーブの焚き付けを作るみたいな音。

あれはナイスだったわよガーリャロッドの奴ぐつたりして挿れたまんまのペニスもすぐしぼんじゃって一瞬死んだかなって思ったんだけど血の滲んできたシャツをめくったら口から泡吹いてて何かごぼごぼ言ってるのいい按配にシニカケになってくれたわそれでロッドのお腹に腕回してもつかいやったのよ『かーみーさーまーおーねーがーいーしーまーすーロッドーとーマーリーアーのーたーまーしーいーをーいーれーかーえーてーくーだーさーいー』ってでもやっぱうまくいかないっぽいロッドだったらマリアと入れ替わったらすぐ返事してくれそうなんなのに呼んでもなにも言わないんだもん仕方ないからもうヤケになってガーリャとラットにも同じこと言わせたのよでも駄目だったどうなってんのかしらね。

そもそも、魂の入れ替えができるなんて信るほうがおかしいんじゃないかしら。

減らず口叩いてんじゃないわよさつきはマリアとロッド入れ替え

るなら協力してもいいって思ったなんて言ったの誰よいい加減自分に都合のいいことばかり言うのよしてよねラットはどうなのよあんなあの伝承を信じてたのどうなのよ。

あたし、わかんない。

まあいいわ結局ロッドとマリアの入れ替えも失敗したのよもう打つ手なしってわけウサちゃんの血もなんか固まってきたるし仕方ないからロッドを二、三発ハンマーでぶん殴って新しい血で模様書き直して何回か一人ではじめみたいにフーシェとマリアの入れ替えを試してみたんだけど結局ダメそんで気づいたらもう月がいい加減高く昇ってるし触ったらもうフーシェも冷たくなっててもう残念だけどあきらめたわけツボーって感じだったあたし涙出てきてごめんねごめんねフーシェあたしあんたを救えなかったよってああもう畜生ガーリヤに後片付け全部任せてあたしずっと泣き腫らしてた。

仕方ないわよ。わたしとりあえず服着て、ウサギの死体を藪ん中放り込んで、あとものは重いし汚いしでほっというて帰ろうとしたのよ。でもキャシーが犬だけは連れて帰ると言うから、カンバスごと犬の死体を持ち上げて、なんとか自転車のカゴに入れたのよ。あは、足がもう硬直しててね、なんかカゴから真っ直ぐになった足が四本ピョコつて出るところなんか、いかにもアメリカつて感じ。カーネルサンダース？　なんだっけ？　箱詰めの鳥のフライ、あれ開けたみたい。

黙りなさいこのバカ。

それでこの子の家まで帰ってきたら、おばさんがね、どうしたのマリア、その恰好血だらけじゃないっていうから、返り血なのよ、ロジャーとかいう男に急に襲われてって冗談半分で言ったら、

ロジャーじゃないわロッドよ。

そうだった？　まあ真に受けちゃって、すぐおじさんが出てきてどこでだ、その男はどうなったとか聞くから、場所を教えたわけ。犬の死体を降ろす暇もないわ。そしたら笑っちゃうのよ、すぐ警察沙汰になって、その晩のうちにあたし病院やら警察署やらたらい回

しよ。ロジャー？ ロッドか、あれも死んじやったみたいでお気の毒でね、次の日彼の両親と警察署の前でばったり出くわして、マリア、お前にいつか復讐してやるなんて物騒なこと言われたりして。キャシーは三日間くらい引きこもっちゃうし、めんどくさいったらないわ。まあ結局正当防衛ってことになったんだけど。レイプに抗ったキエフの女ガリナここにあり、なあんで。

後始末については感謝してるわよガーリヤあたしが喪喪喪喪喪って感じになってるあいだよくやってくれたと思ってる。

それはどうも。

しかし残念ねフーシェが死んじやったこともそうだけどマリアあんなをこの体から追い出せるいい機会だと思っただのにあたしたちが生きてる限りあなたも生きてるなんて不条理だわもうずっとそうやって心の奥に引きこもって返事も何もしないくせにあんたなんてどっかにいつてしまえばいいのよ。

ダー、まったくだわ。

聞いているのマリアこのクソ女あたしがママのお腹の中で死んであなたがあたしを吸い取ったときからいつかあんなを殺してやるって決めてたのにあなたはいつまでもそうやってのうのうと善人ぶって我関せずなんて決め込んであんなに後ろに隠れてこの卑怯者。

そう、そう！

わかってんのよ何も言わなくなっただけからあんなにそうやって黙って聞いているかとかあたしたち同じ体の中にいるんだからねえマリアあたしあきらめないわよマリアいつかマリアあんなを消し去ってやるマリア聞いているんでしょうマリアいつまでもそうやってマリア無視できると思わないことねマリアあんな窓ガラス越しにビクビク外を見る子供みたいにあたしたちのことずっと見てるんでしょうマリアねえマリア！ いつか殺してやるわ！ マリア！

マリア！ こっち向きなさい！

あ
な
た
よ
!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8145e/>

君の名はマリア

2010年10月8日15時23分発行